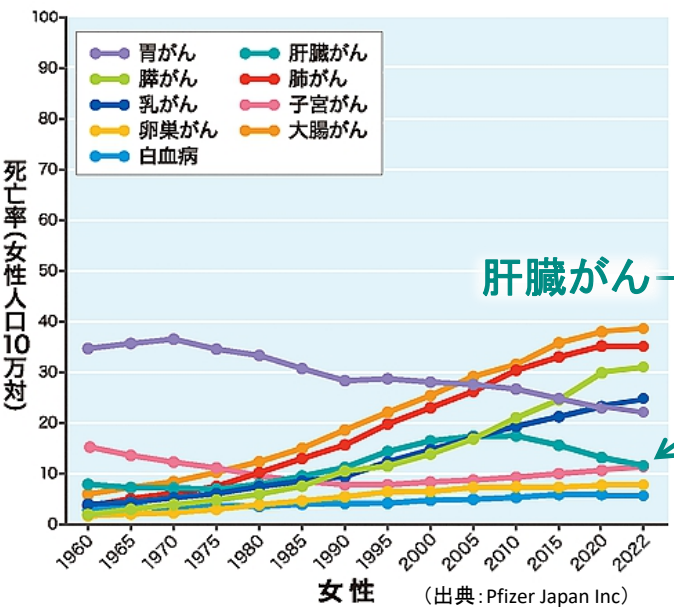
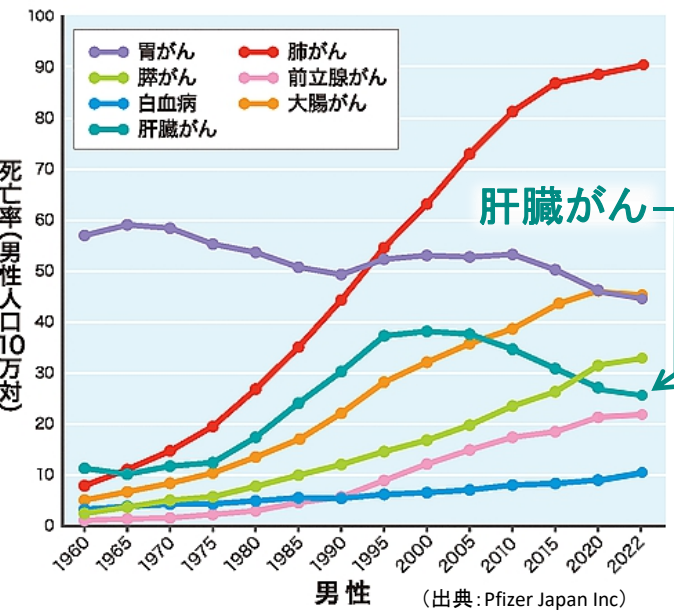


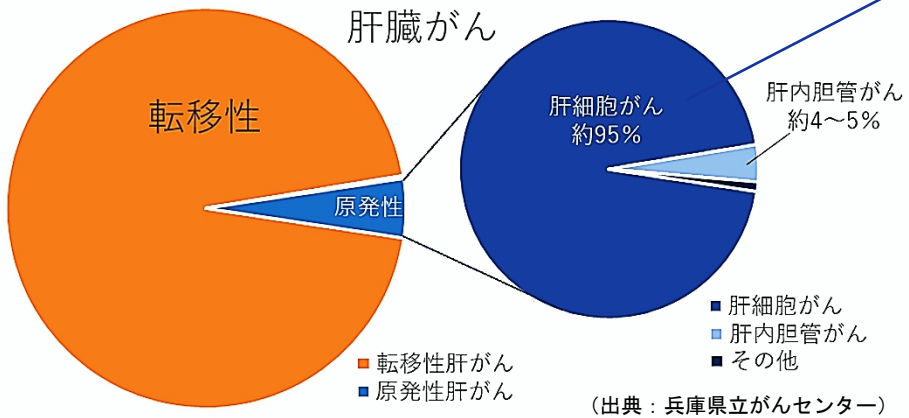
肝臓がんを防ぐための基本的な心構え

<作成: stnv基礎医学研究室>

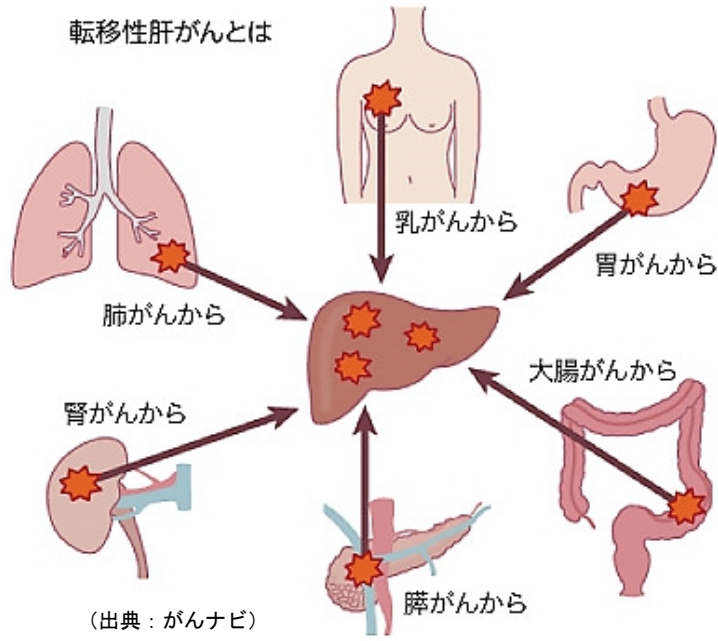
原発性の肝臓がん(肝がん)が減ってきた理由は、ウイルス性肝炎が減ってきたから。



そもそも、肝臓にがんが見られる場合、圧倒的多数となるのは“転移性肝がん”である。これは、肝臓以外の臓器に発生したがんが、肝臓に転移してきたものである。因みに、転移先として多い順番は、肝臓、肺、骨、副腎、…



転移元のがんには、下記のようなものがある



原発性肝がんの約95%は肝細胞がん、約4~5%は肝内胆管がん。

肝細胞がんの原因

- ・ウイルス性(C型肝炎、B型肝炎、など)
 - ・非ウイルス性
- <増減>
- ↓
- ↑

このような原因が、近年において増加傾向

肥満

糖尿病

脂質異常症

菌周病

細菌感染

栄養不足
(タンパク質、他)

自己免疫疾患

アルコール
薬物・毒物

脂肪肝 / 脂肪肝炎 / 肝炎

非アルコール性
脂肪肝炎(NASH)
アルコール性
脂肪肝炎(ASH)

慢性肝炎
↓
肝硬変
↓
肝細胞がん

原因が何であれ、肝細胞を劣悪な状況に陥れてしまうことが、発がんの直接的な原因となる。
即ち、普段は使っていない遺伝子をも開放しなければ生き延びられないような劣悪な状況が、細胞にがん化を決断させる。

肝細胞がんを防ぐには

- ・上記の「肝細胞がんの原因」を解消する。即ち↓
- ・ウイルス性肝炎に罹った場合は、出来るだけ完治を目指す。
- ・非ウイルス性の場合は、次の原因を解消する。即ち、肥満、栄養不足(特にタンパク質、その他、必須栄養素の全て)、糖尿病、脂質異常症、自己免疫疾患、菌周病、細菌感染、過度のアルコール摂取、薬物・毒物などから回避する。